



共生の時代

'07
8月

●発行:グリーンコープ連合理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



■プロフィール
1946年広島県江田島市生まれ。小学1年から父親の仕事の関係で転居した広島市内で育つ。大学で心理学を専攻。県の職員として福祉関係、児童相談の専門員として務めた後、子育てに専念するため1980年退職。3人の子どもは独立。現在は夫と2人暮らし。グリーンコープ生協ひろしま組合員

いのち 生命をつなぐ「食」を大切にしたい

配食ボランティアサークル
「れんげの会」代表

小松 美鈴 さん

食生活は、人生の中で楽しむ一つ。洋食のストックだった父親と素人ながら小料理屋をはじめた母親の影響もあり、「食べる」ということについて独自の主張を持っている小松さん。できる限り加工品は使わずに素材のよさを引き立てる調味料にもこだわる。「幼いながらも父の作るハヤシライスがおいしかったという記憶が鮮明にありま

す」。人が生きていくために欠かせない「食べる」という共通のテーマをとおして地域や世代を越えたつながりを実感するようになった。それは今日の小松さんのライフワークへとつながっている。幼かった子どもを連れて野菜の収穫体験など生産者との交流を楽しんだ。また、「いつかは自分も誰かの助けが必要になる時が来るから」と、率先してデイサービスセンターのボランティアに10年以上かかわってきた。「少しお節介りかなと思うこともありますが、助けたり助けられたり、人とのつながりから学びあうことが多いのです」。

2005年に叔母を、2006年には5年間の自宅介護の後、義母を99歳で看取った。老いや家族の死に直面する中で生命の大切さについて思うことがある。小松さんの同級生には母親の胎内で原爆

の被害に遭った人がいる。当時は紙一重の差で生命が脅かされるという時代。戦後の混乱の中、多感な子ども時代をたくましく生きてきた。「だからこそ子どもたちにまつわる傷ましい事件や教育のあり方がとても気がかりなのです」。退職後も子どもたちが健やかに育ってほしいと嘱託で児童相談を続けている。

忙しい日々の中、自分だけの時間を楽しみたいと映画やコンサートに一人で出かける。最近はその時間も惜しい程。何かと人の世話をやくことが好きな自分と自身を評する。食生活は、人生の中で楽しむ一つ。洋食のストックだった父親と素人ながら小料理屋をはじめた母親の影響もあり、「食べる」ということについて独自の主張を持っている小松さん。できる限り加工品は使わずに素材のよさを引き立てる調味料にもこだわる。「幼いながらも父の作るハヤシライスがおいしかったという記憶が鮮明にありま

す」。人が生きていくために欠かせない「食べる」という共通のテーマをとおして地域や世代を越えたつながりを実感するようになった。それは今日の小松さんのライフワークへとつながっている。幼かった子どもを連れて野菜の収穫体験など生産者との交流を楽しんだ。また、「いつかは自分も誰かの助けが必要になる時が来るから」と、率先してデイサービスセンターのボランティアに10年以上かかわってきた。「少しお節介りかなと思うこともありますが、助けたり助けられたり、人とのつながりから学びあうことが多いのです」。

グリーンコープ 地域運動交流集会開催



各地域の組合員・ワーカーズ約600人が集った(7/5・福岡市)

4・5 面に関連記事

Contents

家計とくらしの応援活動・組合員講師養成講座スタート	2
うちのメーカー・うちの生産者 ⑦ 松合食品(株) うなぎのたれ	3
2007年グリーンコープ地域運動交流集会 グリーンコープ運動とワーカーズ運動の連帯をめざして	4・5
2007年度 連合組織委員会主催 第2回平和学習会 なぜ?と思うことから始める平和運動 一日韓の歴史を踏まえ 連帯していくために	6
グリーンコープは食品の安心・安全の確かさを追求していきます	7

私のグリーンコープとの出会いは、長女(現在17歳)が生まれた頃。当時組合員活動をしてきた小学校からの友人の誘いがあった組合員となり、気が付くと地区委員・理事として活動してまいりました。委員になる時も理事になる時も、周囲の人たちの勧めがあつて、家族の理解と協力を得ながら最終的には自身が決めて今日まで



活動を続けてくれたことを、支えてくれたみなさんに感謝しています。これからは、さかの理事長としてあまり気負うことなく、まわりの人たちの協力を得ながら一歩一歩、生き生きとしたグリーンコープ生協さがめざしてすすんでいきたいと思っております。
グリーンコープ生協さが理事長
田中 裕子

家計とくらしの応援活動

組合員講師養成講座スタート



家計とくらしの応援活動・組合員講師養成講座プログラム

開催日	講座内容	講師
5月30日	オリエンテーション	
	生活再生事業事例報告(知らないことのこわさ)	行岡 みち子さん
	金利に関する基礎知識 カードのしくみ 消費者金融と多重債務問題	陣内 恭子さん 根本 昇さん
6月27日	生涯の家庭生活にかかる必要な生活資金の費用と節約方法	陣内 恭子さん
	借金をしない経済生活の家計管理	
7月25日	生命保険・社会保険の基礎知識	ファイナンシャルプランナー・社会保険労務士 菅野 美和子さん
	多重債務の債務整理方法 消費者金融対策とヤミ金対策	生活再生相談員
7月26日	悪徳商法や金融商品トラブルから身を守る方法	消費生活アドバイザー
	公的な福祉基金の諸条件	生活再生相談員

グリーンコープの生活再生事業は「金銭教育事業」「消費生活支援事業」「生活再生相談事業」「生活再生貸付事業」という4つの柱を立て、取り組みがすすめられています。その中の「金銭教育事業」の一環である「金銭管理教育」と「消費生活支援」の具体的な取り組みとして、「家計とくらしの応援活動」がスタートしました。

2007年5月30日福岡市で、第1回の「家計とくらしの応援活動・組合員講師養成講座」が開かれ、各会員生協から16人の組合員が参加し熱心に学びました。今後、7月までの4回の養成講座を受けた組合員が中心となり、オールグリーンコープの「家計とくらしの応援活動」に取り組んでいくことになります。



生活再生相談室室長 行岡 みち子さん

知らないことのこわさ

2006年8月に開所したグリーンコープ生協ふくおかの生活再生相談室の相談電話件数は5月20日までの累計で865件、面談件数は547件にのぼります。他の相談機関の1年間の面談件数と比較して、グリーンコープへの社会的信頼が高く、安心して相談できると思われることが実感できます。現在、面談件数の80%程が解決へ向かっています。生活再生相談事業の相談事例を紹介します。

夫の在職中の収入は月60万円程。定年退職後に請求される所得税・市民税の一括払いの費用や、立て続けにおきた葬儀費用などがかさんだ。定年後夫が再就職し、収入があるのに厚生年金を受け取ったことで、2年分を一括返還請求された。そのため妻が最初の借金をする。実家への家計応援のため送金もしていた。生活費や借金返済を借金に頼る悪循環に陥る。途中で妻の知人が見かねて400万円を無利子で貸して借金の大半を返済するが、どうにもならず自己破産で債務整理をすることとなった。

この件の問題点は、妻が月給60万から年金収入25万に応じた生活への切り替えに失敗したこと、夫に相談せず家計を切り盛りしようとして借金したこと、貸金業者へ400万円を返済する際、グレーゾーン金利の過払い計算をすれば返さなくていいものがあることを知らなかったことなどです。ライフプランを立てて年金に応じた生活を計画したり、税金や年金の仕組みを知っていれば借金生活に陥ることはなかったのです。対応としては、ご夫婦とお金を貸してくれた知人を交えた協議を重ね、自己破産後の知人への返却方法、生活の仕方、ライフプランの作成などをすすめ、生活の建て直しと解決へと向かいました。

消費への誘惑が氾濫しクレジットカードは誰でも持っている時代です。悪質な貸金業者にかかるとあっという間に多重債務に陥ってしまう事例もあります。そのためにも金銭管理や消費生活の仕組みについて学ぶことは大切です。



消費者金融と多重債務

財務省福岡財務支局金融監督官

根本 昇さん

消費者金融業とは、消費者の信用を担保にして金を直接貸し付ける事業です。消費者金融会社・信販会社・クレジットカード会社などの貸金業者は財務局長または都道府県知事の登録を受けなければなりません。現在全国の登録者数は10年前と比べ3分の1程度に減ってきていますが、消費者向けの貸付残高は逆に増えており、巨大な貸金市場が形成されているのです。

多重債務者とは自分の返済能力を超えた債務を抱えている人のことです。借り入れが容易であり金利負担を認識しない返済システム、借り手の計画性の不足などから多重債務者が多く発生しています。それが原因で自己破産者や自殺者が増加し社会問題となりました。

出資法で定める上限金利の29.2%を超えると刑事罰の対象となります。民事上無効となる利息制限法の上限金利は15~20%。任意性と書面要件を満たせば有効とされている、いわゆる「グレーゾーン金利」と言われるのが両者の差の部分です。最近の最高裁判例で任意性等が厳格に解釈され、有効な弁済と認められない判例が多く見られるようになりました。伴って利息制限法上限金利15~20%を超えた部分について、返還請求が増えているわけです。

2006年12月20日に改正貸金業法が公布されました。「貸金業者の業務の適正化(参入規制の強化などにより業務の適正化を図る)」「過剰貸付の抑制(総量規制を導入し返済能力を超える貸付けを禁止)」「金利体系の適正化(グレーゾーンの撤廃と上限金利の引き下げ)」などが今後概ね3年の内に順次施行されます。

さらに、多重債務問題の解決のためには「借り手へのカウンセリング(債務整理・家計管理)体制の充実」「借りられなくなる人への公的セーフティネットの検討」「ヤミ金融に対する徹底した取り締まり強化」「金融経済教育の充実」などが必要となっています。

過去に、個人が企業や国の傘に守られていた経済成長が右肩上がりだった時代がありました。金融をはじめ、お金に関することを学ばなくても、大きなトラブルさえなければ、何とか生活することができていました。

今は、自己責任の時代。お金に関する個人の知識や能力が問われ、消費や貯蓄の選択のしかたによって生活も大きく変わることになります。

なぜお金のことを学ぶ必要があるのか

マネーじゅく代表生活再生事業を支える会

陣内 恭子さん

金融とは、お金を融通しあう世の中の仕組みのことです。経済社会の中で、お金は身体を流れる血液のような役割を果たしており、それが滞ると、さまざまな病気を引き起こします。今、そのお金に振り回される生き方をする人が増え、多重債務等の消費者トラブルが社会問題化しています。

このような時代に、「家計とくらしの応援活動」の取り組みの意義は大きく、提供する学習の機会によりトラブルを未然に防ぎ、問題解決へ一歩を踏み出すことができる人が増えることは間違いありません。この役割を担う「組合員講師」の方々が、幅広い知識と講師スキルを身に付け、活躍されることを大いに期待しています。

今後、電子マネー等、見えないお金を活用する仕組みも増え、ますますお金の重みを感じにくい世の中になるはず。クレジットの返済方法や金利の知識を持って金融商品を賢く活用できるようになりたいものです。

お金の学習は、消費のスタイル、生活そのものも見直すきっかけになります。正しい知識を持ち、心と身体の健康と経済(お金)がバランスの取れた、「幸せな生き方」へのアドバイスができるようになっていただきたいと思います。



うちのメーカー

76

熊本県宇城市不知火町
松合食品(株)

うちの生産者

本社工場の正門前



自然と健康を求めて

松合食品

うなぎのたれ



松合食品(株)は、グリーンコープの味噌・醤油の製造メーカーの一つとして、長い間顔の見える関係を築きながら豊かな商品作りをしてきた。

熊本県宇城市にある工場を訪ね、「食べもの」を作る真摯な姿勢に迫った。

うなぎのたれができるまで

主な原料：生揚げ醤油、赤洒、砂糖、麦芽水あめ
アルコール、うなぎエキス、水



醤油の原料



工場長 橋本順子さん 代表取締役 松浦 茂さん



うなぎのたれのベースになる本醸造醤油作りのようす



蒸した丸大豆と炒って砕いた小麦に麹菌を加えて、麹を作る



1日めは原料をじっくりと攪拌しながら煮詰め、一晚寝かせておく。味がなじんだら濾してパックに詰める



フォークリフトを縦横に乗りこなす。ちょっとしたコツや工夫で難なく運ぶ



できあがり!

松 合食品は、不知火海を臨む豊かな自然に囲まれた高台にある。敷地面積は8000㎡。江戸時代(文政10年)に創業、その佇まいには180年の歴史が刻まれている。松合地区は江戸から明治時代にかけて地場の原料が集まる地の利と、温暖な気候と良質で豊富な水に恵まれ、酒や醤油の醸造が盛んな港町として栄えた。松合食品も創業の頃は「阿波屋」という屋号で醸造業を営んでいた。時代と共に町は変化し、メーカーも減っていった。大戦後は原料不足もあって特に激減した。松合食品も厳しい状況に遭遇したが、町の人々の応援を受けて1952年に町の名にちなんだ屋号で再スタートした。

社の理念は、「自然と健康」。「世界一よい原料で世界一よい味噌と醤油を作ろう。そして日本の農業を守ろう」を合言葉に、従業員が仕事に打ち込んでいる。環境保全への意識も高く、リサイクルにも精力的に取り組んでいる。

グリーンコープとの出会いは古く、旧くまもと共生社との関係からはじまった。30年以上も前、九州人好みの甘口仕上げの味噌・醤油を共に作り上げた。それは今でも多くの組合員に愛され続けている。

味が子を育てるように味噌や醤油の熟成を見守る。味噌や醤油の主な原料は大豆、米、麦、塩、いたって単純な原料だ。だからこそ原料にこだわる。それらの原料がうまく絡み合い、味噌や醤油として時間をかけて醸成されていく。その時、大きな役割をするのが麹菌だ。その力を借りて熟成がすすむ。麹菌が熱を帯びてくるのは生きている証拠でもあるのだ。

工場は作業工程の流れがスムーズになるよう設計が施されている。中でも商品の品質を決定付ける麹室の室温は自動管理され、一定の温度が保たれている。工場長及び担当者は発酵がはじまる頃、麹の状態を見に深夜の工場を訪れるそうだ。「よし、大丈夫!」子ども達の寝顔を見に行く母親の心境に似ていますね。

人の手の感覚によって一つひとつの作業が積み重ねられて、それがそのまま味噌や醤油の品質の確かさへとつながっている。50人の従業員のうち半分が女性だ。その女性の感性を生かしたアイデアが松合食品の随所にみられる。きめ細やかな配慮が商品作りの強い味方であることは間違いない。

「もったいない」がリサイクル精神を旺盛にする。原料である大豆や麦の搾りかすは通常、産業廃棄物として処分されるか、家畜の飼料に使われる。さらなる有効利用として、工場の敷地内に植えられた梅・びわ・柿・さくらんぼ・栗・甘夏などの果樹に肥料として施す。季節毎にたわわに実った果実は工場でも働く人たちに振舞われている。

また、甘口醤油には丸大豆を原料に使っているため、搾った時に油が浮く。その油を掬い取り、せっけんを作って工場内の洗浄に使っているという。「捨てるのはもったいない。せっけんを作れないだろうか?」。これは先代の社長の案だという。そのためにつけん製造機まで開発した。

グリーンコープ自慢のうなぎはたれが決め手! 松合食品には隠れた名品がある。それが「うなぎのたれ」だ。丸大豆を使ったこだわりの生揚げ醤油とうなぎの漬けたれのコラボレーションが作り出す旨みが凝縮している。グリーンコープのうなぎをおいしく食べるための立役者だ。うなぎ専門店でないとしても手に入らない貴重な品をグリーンコープのうなぎメーカーより譲り受け、グリーンコープと相談を重ねて今の味にたどり着いた逸品だ。地元熊本の酒造メーカーのこだわりの赤酒もたっぷり使っている。今まさにうなぎのおいしい季節。松合食品の「うなぎのたれ」でより深みのあるうなぎを味わえる。

新しい感覚でこだわりの商品開発の取り組みが会員生協との間で活気付いている。アイデア商品「卵かけ醤油たまごココ」は、グリーンコープ生協くまもとの組合員と共に生み出したものだ。地域を大切に、地域に根ざす松合食品の姿勢にグリーンコープ商品の未来が見えてくる。

※グリーンコープのうなぎは国産。阿蘇の伏流水を使った養鰻池で育てるだけ自然に近い環境で育てる。成長ホルモンなどの薬剤は一切使用しない。

ワーカーズ運動の連帯をめざして

グリーンコープの組合員とワーカーズが出会う集会は今年で3回目、「グリーンコープ地域運動交流集会」と名称を改め、2007年7月5日福岡市で開催されました。さまざまな業種のワーカーズや各会員生協の組合員、約600人が一堂に会しました。ワーカーズ運動の広がりと充実、グリーンコープ運動が地域に根付いていくために欠かせないものです。出会いからはじまった交流はさらに深化し、グリーンコープ運動とワーカーズ運動の連帯を創り出していくこととなります。

会員生協からの報告



ブラックライトで蛍光灯増量の残留をみるふくおかの取り組み



地元のメーカーから説明を聞く、さが・(長崎)の組合員

グリーンコープの会員生協から、「食べもの」と「せつけん」の取り組みのようすが報告されました。さがと(長崎)から、グリーンコープ&グリーンクラブ(グリーンコープ商品納入業者の会)による「西九州商品交流会」のようすについて、経過や具体例について映像を交えた報告がありました。グリーンコープ生協ふくおからは、「水」をテーマにしたせつけん運動の取り組みに関する報告と、2008年4月開催の「シャボン玉フォーラムinふくおか」のアピールがありました。グリーンコープ生協さが・グリーンコープ生協(長崎)グリーンコープ生協ふくお

2005年初めて開催した「地域福祉交流集会」は、「オールグリーンコープの到達点とこれから」というテーマで、地域福祉を担う組合員やワーカーズ約350人が一堂に会し、地域福祉の担い手であるワーカーズの活躍のようすとその存在意義について、実感できた集会成为りました。またそれは、「福祉ワーカーズコレクティブ連合会」「社会福祉法人煌」「グリーンコープ連合」の三者の主体が共催したという点で画期的であり、ワーカーズが社会福祉法人を中心に三者がひとつになって運動を展開する、そういう時代のはじまりをみんなを感じる事ができました。

2006年度は「グリーンコープ連合」の誕生が大きな出来事でした。過去2回の集会では、多種多様なワーカーズの誕生と活躍がグリーンコープ運動を豊かに元気に展開してきたこと、しかも、しっかりと地域に求められる形で根付くことができるということを確認できました。

3回目となる今集會。グリーンコープ運動とワーカーズ運動がどのように展開されているのか、組合員

や連帯は生まれてきているのか、などの課題を踏まえ、た上で、私たちの成長と発展が問われているのだと思えます。福祉にとどまらず大きなワーカーズ運動を、そして生協と共にグリーンコープ運動を地域に下降させていくことにします。組合員とワーカーズの新たな出会いの場からはじまった集會を、さらに発展させられる場になりたいと考えます。

ファイバーリサイクル
NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会は、1995年から、バキスタンのカラチにある「アルカイル・アカデミー」というスラムの学校の運営資金をつくるための古着販売事業を、現地のアルカイル事業グループと一緒にすすめています。私たちの生活から出される古着の行き先を暮らす人々と協力して行う事業です。双方の



スラムの子どもの自立を支援する

社会福祉法人 煌

社会福祉法人 煌の現状と今後について



理事長 行岡 良治さん

2000年4月の介護保険へ、法人格を持っていなかったワーカーズは「生協との共同経営」という形で参入しました。それを契機に、ワーカーズは多様性と総合性をたくましく獲得してきました。

介護のワーカーズ運動が、グリーンコープ生協と新しく連帯できるようになりました。社会福祉法人煌の今後に残された課題は次のとおりです。①デイサービス(通所)事業に参入できるよう、「第一種社会福祉法人」にレベルアップする

②グリーンコープ運動の中から生まれた社会福祉法人として、できれば「社会福祉法人グリーンコープ」に名称変更し、グリーンコープと不即不離の関係にあることを誰にも分かるようにする。③ワーカーズが社会的・経済的に自立し、生協との新しい連帯関係が形成される中で、訪問介護のワーカーズ運動だけでなく、子育てや食品店舗、共同購入のワーカーズ運動の強化・活性化を図る。

食品店舗ワーカーズ



夜市で賑うくまもと しみず店

山口、福岡、大分、熊本、鹿児島にある食品店舗ワーカーズは14グループ。安心・安全な食品を明るい笑顔で販売している。課題は世代交代、ワーカー不足との報告があった。

やまぐち・ふくおか・くまもと・おおいの食品店舗ワーカーズ

生活再生事業

グリーンコープ生協ふくおからは、2007年8月から本格的に金銭教育事業、消費生活支援事業、生活再生相談事業、生活再生貸付事業に踏み出しました。2007年6月20日現在535件の面談者となり、面談件数は家族にも連鎖し、609件となりました。面談数の約8割に解決の目途がつかまりました。

多重債務者とは、借金を借金で返済している自転車操業のような状態に陥った人のことをいいます。平均6〜7社、多い人は30社の貸金業者から借りているようです。特徴としては2007年3月末までの相談者は、67.5%が女性でした。40歳代が一番多く、34.9%が借金を返済するために借金をしている、家計の補助が26.7%、教育費が6.7%、医療費が1.2%と69.5%の人が生活費のためとなっています。連帯保証人や名義貸しをし、他人の借金を背負っている人が3.5%、事業資金で2%と、総計7.1%の人が主

2007年グリーンコープ地域運動交流集会

グリーンコープ運動とワーカース

基調報告



グリーンコープ連合
吉田文子会長

「グリーンコープ地域運動」という言葉を明確に登場させ、グリーンコープ運動を共にすすめるすべての組織・団体とワーカースが出会い、そしてどのように関係を深めつつあるのか、また、異業種のワーカースとの出会い

まず、相互に連帯することから、はじめましょう。そしてグリーンコープ運動とワーカース運動が連帯することで手を取りあつて地域の願いに込める、或いは共に解決することで、地域に豊かに息づいていきます。

いて解決できず苦しんでいるワーカースがたくさんいます。みんなの知恵を出しあつて解決していきたいものです。

まとめ

会員生協からはグリーンコープ運動の柱である「食べ物運動」と「せつけん運動」の取り組みを、各ワーカースからは、人員不足に伴う深刻な状況もありながら、それを吹き飛ばすような元気いっぱい報告があり、昨年より確実に前進したグリーンコープ運動を確認することができました。

また、これからのグリーンコープの方向性について、6つのテーマ(共同体設立、生活再生事業、ファイバーリサイクル、南と北の共生、代理人運動、社会福祉法人煌)で、その現状と課題を共有することができました。いつも次から次へと新しいことに挑戦するグリーンコープに驚きながらも魅せられているのは私だけではないと思います。農業漬物の輸入野菜や偽装肉、大手介護事業所の不正などのさまざまな社会問題が起こっている今、グリーンコープのよさを再確認していきましょう。グリーンコープ運動から生まれたワーカースが一つになつて、10年先、20年先も子



福祉ワーカース連合会
理事長 後藤 美穂さん

どもたちの未来のために大切に育てていかねばなりません。

私たちワーカースは今回初めて、県を越え協議の場を持ち交流会に臨みました。この初めの一步をさらに広げ、それぞれのワーカース同士が手をつなぎ、いつかは一緒に社会福祉法人になればとも考えています。みんなの力を合わせれば、グリーンコープ運動がさらに広がり、地域を変えていけるのではないかと考えます。今後も私たちが私たちに根ざした活動を続けていくつもりです。

2008年度も、組合員とワーカースが再び出会い、その成果を確認できることを願って一緒に頑張っていきたいと思います。

福祉ワーカース

ケアマネジャー・デイサービス
在宅福祉ワーカース・子育てサポートワーカース
ふくし情報でんわ・福祉用品店舗
食事・配食ワーカース



おいしいお弁当を
笑顔で届ける
配食サービス



デイサービスへの送り迎え

グリーンコープの福祉ワーカースは、現在60グループあります(2007年7月7日)。グリーンコープでは、赤ちゃんから障がい者、高齢者までの福祉をワーカースが担っています。

た質の高いサービスが受けられます。誰もが安心して暮らし続けられるように、福祉ワーカースはさまざまな利用者のニーズにこころをこめて対応しています。今回は7種の福祉関係のワーカースが地域福祉を実現していくための実践例を映像で紹介しました。

今回の30代の利用者が脳梗塞で入院した母親を引き取らなければならなくなったという設定で展開されました。子育てサポートワーカースの利用者がワーカースに相談したことを機に、各部門のワーカースが連携していくようすを表現したものです。

組合員がパートという仕事を選ばないで、ワーカースを選んだ理由は、地域で必要なことを自分たちで運営していく喜びを感じているからです。日々利用者とのふれあいの中で心と心とつながり、自分たちのワーカースが確実に役に立っているという喜びがあります。それを糧に地域福祉に貢献していきたいと思えます。



NPO法人
日本ファイバーリサイクル
連帯協議会 JFSA
理事長 田邊 紀子さん

古着だから、いらないからあげるといってではなく、自分たちにとって意味のある取り組みとして位置付けています。送料も負担するとしています。古着を売った収益は学校に行けない子どもたちの就学のためと、将来の自立のために使われます。

現在、グリーンコープ生協ふくおかで取り組みを準備しています。パキスタンの人たちと出会う、つながって、支えあう仕組みをつくっていききたいと思えます。

立場から地球的な規模での資源の流れを考え、お互いに役に立つ関係です。それは、人と人の支えあいによる豊かな社会をつくるために大切なことです。

共同購入ワーカース



組合員と生協のパイプ役として、共同購入商品の配達とキープの受け渡しを担っている。福岡、大分、熊本に20グループ。配達で心がけているポイントなど映像を交えて紹介があった。ふくおか・くまもと・おおいの共同購入ワーカース

生活再生貸付事業は、この間本人及び家族の面談をていねいに行い、相談者が生活を再生できるよう弁護士や司法書士を交えて解決策を講じてきました。今後も安心して相談できる事業として確立したいと思えます。

グリーンコープ生協ふくおか 常務理事 行岡 みち子さん

代理人ネットワーク運動

ふくおかネットワーク 福岡では「市民が共生するまちづくり」、「グリーンコープの社会化を実現するため」に1989年に初めて代理人を送り出しました。17年目になる2006年、2007年に行われた選挙で、3つの自治体で7人の代理人を送り出すまでに運動は広がりました。くまもと生活者ネットワーク 熊本では2007年4月の統一地方選に臨みましたが、代理人を送り出すことはできませんでした。

市民の手で「住んでいるまちを住みたいまちに」していくために、ネットワークをつくり代理人運動を広げていきます。「いつしよに、かたらんね!」

※「仲間になりませんか」という意味



新生児の沐浴をする
在宅福祉ワーカース

平和学習会
2007年度

グリーンコープ連合組織委員会

なぜ?と思うことから始める平和運動

— 日韓の歴史を踏まえ、連帯していくために —

6月18日・福岡市
参加者107人

グリーンコープは、「平和」の取り組みの一環として、「近くて遠い国」と言われていた韓国と日本の歴史を知ることとおして真の平和の意味を考えてきました。学習すると共に、それを検証するための「ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅」がはじまったのは1996年。その積み重ねによって、韓国のハンサム生協やデュレコープの組合員との市民レベルの連帯は深まってきています。

今年度は、内海愛子さんを講師に迎え、日韓の歴史について学び、共に未来を創るための「平和」のあり方について学びました。



▲独立記念館の入口には高さ51mの巨大モニュメントがある。「民族の塔」と呼ばれ、民族の自主・自立、南北の統一を望む強い意志を表わしている



▲タブコル公園内にある、三・一独立運動のレリーフの説明を聞く「ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅」参加者(2006年度)



講師
内海 愛子さん

1967年早稲田大学文学部卒業
元恵泉女学園大学教授。現在大阪経済法科大学アジア太平洋センター客員教授

第二次世界大戦の敗戦国であるナチスドイツの戦争犯罪は、それまでの概念に加えて「平和に対する罪」が新しく適用された。日本の戦争犯罪を裁く極東国際軍事裁判(東京裁判)にも適用され合わせて3つの罪でA級戦犯が裁かれた。捕虜や住民に対する虐待や不時着したB29搭乗員を刺殺・斬首した村民、捕虜を使つた企業もB・C級戦犯裁判で裁かれた。ポツダム宣言に「吾等の捕虜を虐待せるものを含むあらゆる戦争犯罪人に対しては厳重なる処罰加えられるべし」という条文にある通り、連合国人に対する犯罪は徹底的に裁かれている。連合国は、第二次世界大戦以前の植民地支配を前提に裁判を行い、朝鮮や台湾に対する日本の植民地支配はまったく議論されなかった。例えば、「慰安婦」の問題一つをとっても連合国であるオランダ人女性を慰安婦として



講師への質問も活発に行われた

日本の戦後処理はどのようなものだったか

裁くが、アジア人慰安婦の問題は見逃されてきた。アジア及び植民地支配に対する問題意識が、裁く側・裁かれる側共になく、疎かにされていた。

一方、日本の植民地支配から解放されたアジアの国々は次々と独立を宣言し、それぞれの民族の力に依じて独立戦争へと突きすすんでいった。

敗戦から3年程かけて、連合国による日本の民主改革が行われた。1952年、サンフランシスコ講和条約により日本は独立、と同時に沖縄を切り離した。また、アジアへの賠償もおおざりだった。結果として、朝鮮や台湾への植民地支配の問題を歴史の中に置き去りにしてきてしまったと言える。

近現代の日朝関係に関する主な事項

1910年	日韓併合条約締結
1919年	韓国で三・一独立運動
1923年	関東大震災
1937年	日中全面戦争突入
1941年	アジア・太平洋戦争はじまる
1945年	
7月26日	米英中がポツダム宣言を発する
8月6日	広島に原爆投下
8月9日	長崎に原爆投下
8月15日	日本敗戦 朝鮮が日本から解放される
9月6日	朝鮮人民共和国樹立宣言
1948年	
8月13日	大韓民国樹立の宣布式挙行
8月15日	大韓民国樹立(李承晩政権)
9月9日	朝鮮民主主義人民共和国樹立
1950年	朝鮮戦争勃発
1951年	サンフランシスコ講和条約調印
1965年	日韓基本条約調印・発効
1972年	沖繩復帰・日中国交正常化
1973年	金大中氏拉致事件
1982年	日本の歴史教科書が韓国などから批判される
1988年	ソウルオリンピック開催
2002年	サッカーワールドカップ日韓共同開催
?	韓流ブーム起こる

朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と米ソ冷戦のはじまり

朝鮮の独立は「カイロ宣言」により約束されていた。それを受けて朝鮮では建国準備委員会が活動をはじめ、1945年9月に朝鮮人民共和国樹立を宣言した。しかし、アメリカはそれを否認、民主運動家が暗殺されるなど多くの犠牲者を出す運動が展開される中、李承晩が単独選挙を強行し、1948年8月大韓民国を樹立、翌9月には朝鮮民主主義人民共和国が誕生した。その後朝鮮半島の主導権を巡り1950年朝鮮戦争が勃発、半島全土が戦場となった。この戦争によって、朝鮮半島は南北に分断され

冷戦時代、アメリカの傘のもとにあつた日本では、戦争責任の追及は禁じられ、自分たちの手による追及もかき消されていった。痛みを伴う責任の追及を敢てする必要がなかったとも言える。それが日本の戦後処

理の大きな特徴であり加害者意識が希薄な要因と言えるだろう。

日韓の連帯は心で感じながら

金大中政権誕生を機に韓国では女性省が誕生、戸主制度の廃止、定住外国人の参政権も実現した。そんなダイナミックな変化の中に昨今ブームの「韓流」作品群がある。その映像の作り手には民主化闘争で追われた人たちがかなりいると言われている。韓流作品のおもしろさは、その歴史と社会背景を丹念に描いているところだ。30年前は「韓国」というと深刻に構えたものだが、「韓流」ブームはドラマや映画を通じて日韓の歴史を考えるきっかけになり、市民交流の新しいページを開いた。

「ピョンファ・エ・ダリ 韓国への旅」参加者には、日本と韓国の悲しくて辛い歴史を肌で感じてきてほしい。そして、感じたことを多くの人に伝えてほしい。それが平和への一歩につながるだろう。

続いていく。朝鮮戦争がはじまると、アメリカは戦争裁判や日本の戦争責任の追及どころではなくなった。しかも日本を不沈空母、反共の砦として再編成していった。日本は戦争物資調達基地となることで経済復興を遂げ、企業が海外に進出していった。賠償がお金ではなく「経済協力」の方式に変わったのである。そのような経過が日本における加害者意識の欠如へとつながっていったと考えられる。

グリーンコープは食品の 安心・安全の確かさを追求していきます

6月中旬、「CO・OP牛肉コロッケ」の牛肉偽装に関するニュースが新聞やテレビで報道されました。2002年の雪印食品の偽装表示事件以降、消費者の食品への安心・安全を求める声は絶えることはありません。そのような中起こった今回の事件にグリーンコープは商品を販売する責任者であるという立場を明確にした上で、直ちに全商品の点検を行うと共に、その調査内容を組合員にきちんとお知らせしました。

今回の件に関する経過とグリーンコープの考え方をまとめました。

安心・安全のシステム作りを取り組みます。

生産者とメーカーそしてグリーンコープで築く安心・安全のしくみ

今回グリーンコープは、取り扱うすべての商品の点検を素早く行うことができました。それは日常的に取引先と商品の原料（一次原料と二次原料はすべての商品、三次原料は必要に応じて）と製造工程の確認を行っているからです。今回も（株）加ト吉の「原料配合表」や「監査記録」を点検・確認することで迅速に判断することができました。その根拠となつていくのが「商品仕様書システム」であり、そのベースになつていくのが取引先とグリーンコープが共に築いてきた信頼関係なのです。このような商品に原料配合表まで点検している生協はグリーンコープ以外には考えられませんが、ただ一つだけ残念なことは、ミートホープ社が直接グリーンコープと関係してはなかったという点です。しかし、間接的であれ、グリーンコープ商品の製造にかかわるあらゆるメーカーとの関係構築が今後の課題であると考えています。

今回の報道を受けて、グリーンコープは「ミートホープ（株）」の原料を使った商品があるか、「（株）北海道加ト吉」の製造商品があるか、「関連して加ト吉製造の商品はどうか」について調査を行いました。その内容は、次のとおりです（第一弾の組合員ニュース）。

①グリーンコープは「CO・OP牛肉コロッケ」は取り扱っていない。北海道加ト吉で製造した商品の取り扱いもないことを確認

②グリーンコープの全商品の三次原料まで徹底的に点検した。結果、原料牛肉は産直農産物だが、ミートホープ社の牛脂を使用している商品が2品目（お弁当当用牛肉コロッケ・お弁当コロッケ）あることが分かった。詳細について調査する間、供給を停止

③「北海道加ト吉」以外の「（株）加ト吉」の工場で作している商品14品目は、「グリーンコープ商品生産・製造認証システム」（以下、GC商品認証システム）の監査で商品仕様書どおりに製造されていることを確認

さらに、②に関する検査結果と対応は、次のとおりです（第二弾の組合員ニュース）。

①お弁当当用牛肉コロッケ2品目の原料牛肉が産直農産物であることを「GC商品認証システム」の監査で確認。しかし、コロッケを作る際の牛肉と野菜の炒め油として牛脂（お弁当当用牛肉コロッケに16%、お弁当コロッケに1.85%）を使用。それがミートホープ社製造のものであった。以上を商品仕様書で確認

②検査の結果、2品目のコロッケを製造しているメーカーに保管されていたミートホープ社製造の牛脂から、豚の遺伝子1%程度検出されているため、製品であるコロッケからも豚の遺伝子が微量（1%未満）検出


④伴って、家庭内在庫回収及び商品代金の返金を行う

以上のように、グリーンコープはすべてを明らかにした上で、商品を販売する側の責任として、今回の事件を重く受け止めました。今回のような悪質な偽装事件を防ぎきれなかったことに対する組合員への責任であると認めています。この事実を真摯に受け止め、今後再び、このようなことが起こらないように、さらなる

メーカーと一緒になつて互いが納得できるシステム作りを構築して時間をかけて検討してきました。2003年に青果・米・たまごからスタート、2005年に畜産および加工食品の分野まで広がりました。このシステムは、研修を受けたグリーンコープの職員が年に一度監査を行い、その内容についてグリーンコープ連合理事会で確認するという流れで運用されています。

しかも、グリーンコープは可能な限り産直原料を、それができない場合は国産原料を使用するなど、原料にこだわつてきました。そのこだわりが生産者やメーカーを突き動かす、信頼関係を築くことにつながっています。言い換えれば、これまでの信頼関係がベースにあつたからこそ、「GC商品認証システム」を作りあげることができたと言えます。

今回の件について、日本生活協同組合連合会とグリーンコープの対応の違いがあることは明らかです。これからもグリーンコープは商品そのものの安心・安全を明確にするという姿勢を貫いていきます。



子どもたちの未来のために No.1

グリーンコープは脱原発をめざしています

グリーンコープでは、原発は「いのち・自然・くらし」を脅かすものとして脱原発に取り組んでいます。私たちは、みどりの地球をみどりのままに、いのちを育む環境を子どもたちにつなげたい、安心して暮らせる社会を作りたい、と考えているからです。

現在の私たちの暮らしは、便利な生活があたりまえとして、エネルギー大量消費型の構造に浸っています。グリーンコープは、自分たちの暮らしのあり方を見直すことから脱原発をめざしていきます。

今号から「子どもたちの未来のために」をテーマに、原発についての基本的な話、原発の何が問題なのか、原発となぜ共存できないのか、原発を取り巻くタイムリーな話題などの内容で、みんなで考えられるように掲載していきます。そのことをとおして、脱原発について考えていきましょう。

グリーンコープ連合組織委員会

新テーマで募集中

- 思いがけない家族のひと言
「ひと言」で思わず笑ってしまった、勇気づけられたりしたエピソードを紹介してください
- とっておきの一枚
楽しかった家族旅行の思い出や、大切な家族の一員でもあるペットの写真にコメントを添えて
- 私の好きな花
大好きな花にまつわるエピソードを紹介してください


● 400字程度 ● 毎月末
● 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
● 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワークス連(RCN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

言・い・た・い

なつかしい味

タミさんのパン焼き器



私にとつて、祖母の焼いたドーナツ型のパンは忘れられない味のひとつです。

田舎へ遊びに行くと、いつも祖母は孫たちのおやつに「タミさんのパン焼き器」と同じ鍋で大きなドーナツ型のパンを焼いてくれました。マーガリンとハチミツをつけて、いとこたちと一緒に食べた思い出。もうすぐ40歳になろうとするのに、よく覚えています。今は認知症の祖母ですが、お礼が言いたくて「おばあちゃん、おの焼いてくれたパン、おいしくて今でも忘れられません。」

「のよ」と伝えたことがありますが、タミさんのパン焼き器がグリーンコープのカタログに載っていたので「これだ！」と注文して、さっそく作ってみました。祖母のようにうまくは焼けませんが、いつも同じおやつでしたが、孫の私たちは毎回大喜びで食べていたのを、このテーマを見てとてもなつかしく思い出しました。

「おばあちゃん、愛情たっぷりパンをありがとう！」

大分県中津市
村上 和代 (39歳)

いま地域を考える

No.181



工藤さん(ランドスケープアーキテクト(景観設計者)) 崎田さん(建設コンサルタント) 木佐貫さん(フリーアナウンサー) 吉武さん(グリーンコープ生協みやざき組合員事務局) 井上さん(公務員) 外山さん(公務員) 辻さん(都市計画プランナー) 海野さん(建設会社代表) 川上さん(木材会社代表)

◆日本全国スギダラケ倶楽部 <http://sugidara.jp/>
◆南のスギダラ(宮崎支部活動ブログ) <http://miyadara.exblog.jp/>



紙製杉マスコット オビータ

もつかぬまま放置され、今や花粉症の元凶と白い目で見られている。有様である。「日本全国スギダラケ倶楽部」(通称スギダラ)は、杉だらけになつた山の杉を切り、家屋や暮らしの中に杉材を取り入れ、全国を杉だらけにしていこうという目的を持つ。

この時、実際に街路灯などのデザインを手がけたのが、スギダラの生みの親でもあるデザイナー南雲勝志さんである。彼は造船材としてかつて名を馳せた鉄杉などの特徴を知るにつれ、何とかこの魅力的な木を生かす道はないのかと考へはじめた。それは地元の人々、特に地場産の杉の活用を図りたい木材業界や自治体にとっては願ってもない発案だった。杉材は柔らかく、構造物をつくつた後もメンテナンスが必要な材である。その特徴を見極めた南雲デザインの街路灯やベンチが、地元建設業者会・日向木の芽会の手で形になっていった。ミヤダラの牽引役となる海野さんも木の芽会の一人として奔走した。

小学校の6年生を対象に、実際に使える屋台をデザインし、つくることにより、自分たちの暮らす街や特産の杉、急激な勢いで破壊されている自然環境などを総合的に学ぶ課外授業。南雲さんが講師になり、実際の屋台づくりは木の芽会が指導にあたった。画期的なこの試みは県内外で高く評価され、屋台はグッドデザイン賞を受賞した。子どもたちはもちろん、携わった大人たちをも興奮の渦に巻き込んだ。

自由にかかわる。それがミヤダラ流。ミヤダラ設立時のメンバーはこの塾に何らかの形でかわつた人々である。ミヤダラはこの間の経過から行政とのかかわりは強いものの、まずメンバーそれぞれ自身が楽しむことを優先する。各地にある支部へのスギダラツアールや地元イベントへの参加などは「即決」で出かけていく。ある夜のミーティングは多彩な顔ぶれでスタートした。冒頭にミヤダラとのかかわりを聞くと、「ミヤダラは杉をとおして盛り上がるという会。アカデミックにならずにね」と川上さん。とにかく「楽しい」が最優先のよう。「ここは会合のたびに自己紹介するので。見知っているも何度もしつこく」と年若い崎田さん。そのおかげで、今はミヤダラの重層的な人間関係が仕事にも生かされているという。南雲さんと仕事先で出会う、一員となった工藤さん。現在は、吉武さん、崎田さんと共に「ミヤダラ三姉妹」の異名をとる。ミヤダラの活動を常にリードする存在となつている。「公園の柵や階段はやつぱりほんものの木でなければ」というこだわりを持つ。「割り箸はもともと使いたくない。一本の木を余すところなく使うから森林破壊に繋がりません」と、割り箸談義を繰り広げる支部長の海野さん。豪放磊落にして繊細な人柄に坐が和む。そして、情報発信の重責を担う吉武さんはこの夜もカメラを手離さなかつた。ブログも一から学んで今や自在に操る。

いつものミヤダラ流で、ゆるやかにある種勝手に話題は移り、日南市油津や都市市での杉を生かしたイベントの話へと盛り上がりつつあった。杉の向うに同じ風景を見る人たちが。

杉を介してはじまった「ミヤダラ」の終わらない物語

15年間杉材の生産が全国1位の宮崎県。ブランド材である鉄杉も抱え、それら良質の杉材をもっと活用できないかと模索を続けている。その私設応援団とも言える組織が、3年前に結成された「日本全国スギダラケ倶楽部 宮崎支部」(通称ミヤダラ)である。杉を愛し東奔西走の日々を、会の広報宣伝部長 吉武春美さん(グリーンコープ生協みやざき組合員)たちメンバーに聞いた。

日本全国スギダラケ倶楽部 宮崎支部

案外知られていない杉の歴史

杉は学名を「クリプトメリア ジャポニカ(隠れた日本の財産)」といい、日本の固有種である。秋田杉、吉野杉に代表されるように、かつては日本各地で建築用材のみならず、生活用材の食器、桶、家具にまでそこかしこに杉は溢れていた。大部分が植林である杉は、植えて育てて使つてまた植えるというサイクルで、近年まで需要と供給がバランスよく循環していたのだ。その循環が大戦で崩れた。戦後は、伐採された山を再び植林で埋め尽くしたものの、今度は安い外材に押し付けられる目処

杉を生かしたいと願ってきた人々が出会う

10年前、宮崎県と日向市では中心市街地の再生を図るために「公民協働のまちづくり」を基本理念に、日向市駅をセクターコアとするまちづくりをスタートさせた。中でも景觀デザインに取り組んだことがさまざまな分野のコラボレーションにつながり、その結果、中心市街は見事に蘇つた。清々しい木の香が漂う駅舎や、手触りもやさしい街路灯、ベンチなどには地元耳川流域の杉材が使われ、日向市がすすめている「木の文化のまちづくり」にふさわしい景観となつた。



青島でのイベント参加のための絵馬作り。ミヤダラの学生グループ「team★(チームスター)」と宮崎っ子

杉をとおして子どもたちに豊かな未来を。まちづくりでの南雲さんと海野さんの出合いが2004年、宮崎県主催の「日向市活性化塾」でブレイクする。この塾は日向市立富高小学校の6年生を対象に、実際に使える屋台をデザインし、つくることにより、自分たちの暮らす街や特産の杉、急激な勢いで破壊されている自然環境などを総合的に学ぶ課外授業。南雲さんが講師になり、実際の屋台づくりは木の芽会が指導にあたった。画期的なこの試みは県内外で高く評価され、屋台はグッドデザイン賞を受賞した。子どもたちはもちろん、携わった大人たちをも興奮の渦に巻き込んだ。

リユース リサイクル データ

2007年5月分

回収本数 1,161,117本
回収率 100.1%
牛乳びん

回収本数 235,554本
回収率 62.7%
リユースびん

回収重量 12,294kg
回収率 60.5%
トレー

回収重量 39,340kg
回収率 93.1%
モールドバック

2007年6月の組合員数 374274人

(6/20現在)

グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協さが
グリーンコープ生協(長崎)
グリーンコープ生協くまもと
グリーンコープかごしま生協



グリーンコープ生協おおいた
グリーンコープ生協みやざき
グリーンコープ生協おおさか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかもと
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協ひろしま
グリーンコープ生協みやまぐち生協

放射能汚染測定結果報告(168)

2007年5月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※産直びん牛乳ノンホモ	(原乳)熊本県	ND	ND	ND

「六ヶ所再処理工場」本格稼働に反対し、その中止を求める署名」の取り組みについて

標記の件に関して、本紙8月号に「7月中旬から8月にかけて展開予定」と案内していましたが、署名用紙の配布日程が決まりましたのでお知らせします。
■配布…カタログGREEN23号(8/20~8/25)
■回収…8月27日~9月8日(2週間)
みなさんのご協力をお願いします